

# ラオスのこども通信

44号

2008年12月発行

発行：特定非営利活動法人 ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603

## 特集 ラオスの活動を 世界に発信....2

ラオスで、日本各地で、

様々な支援・参加・協力のもとに.....4

プロジェクトの動き.....6

国内の活動/事務局より.....7

寄付者・協力者のみなさん .....8

受賞  
しました!



IBBY朝日国際児童図書普及賞



「ラオスのこども」の活動を世界各国からの500人の参加者に発表

## ラオスの活動を 世界に発信

2008年9月、第31回IBBY世界大会がデンマークのコペンハーゲンで行われ、「ラオスのこども」からは共同代表はじめ5人が出席。活動紹介とともにIBBY朝日国際児童図書普及賞の受賞式が行われました。この受賞は、みなさまのご支援、ご協力があったからこそ。どうもありがとうございます。

特定非営利活動法人ラオスのこどもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

# IBBY 世界大会

## ラオスの活動を世界に発信。[Copenhagen]

9月7～10日に開催されたIBBY(国際児童図書評議会)世界大会には、作家、編集者、図書館員、研究者など子どもの本に関わる人々、500人以上が参加して行われました。



図書袋を紹介すると参加者は次々とシャッターを切って

### ● 70 か国の参加者に

#### ラオスの読書推進活動を紹介

初日の7日は児童書のノーベル賞ともいわれるアンデルセン賞の授賞式がコペンハーゲンの街のシンボルといえるチボリ公園で開催され、デンマーク女王から作家に賞が渡されました。8日からは市内のホテルの1フロアを会場にして3日間にわたって、約70か国から集まった参加者による発表と意見交換が繰り広げられました。そして9日の全体会で、朝日賞を受賞した2団体、激しい内戦を経たルワンダで児童書の出版活動を行う「バカメ」、ラオスで出版と読書推進活動を行う「ラオスのこども」が、それぞれ活動を発表しました。



昼休みにロビーで紙芝居を実演興味深げに説明を聞く参加者

### ● 試行錯誤の歩みとその成果への評価

発表は、「よその国のことば(フランス語)で学校教育を受けた私は、生まれたときからのことばである母語で教育を受けたみなさんをうらやましく思います」というチャンタソンのことばとともに、子どもが本に親しむ環境が整わないラオスの歴史的背景と現状の説明から始めました。そして出版活動、全国の学校への

図書配付、教員のトレーニング、配布後の学校への調査、図書の補充などのフォロー、各学校での様々な工夫を凝らした図書活動の実施状況などについて紹介、20分ほどの短い時間でしたが、参加者は聞き入っていました。エルダ審査委員長は、「数々の試行錯誤を経て子どもたちが本に親しめるようになってきたことが、とても参考になり、参加者の励みになりました」と語っていました。

### ● 図書袋に会場の目が集中

ラオスでの読書推進活動の一つのシンボルといえるのが図書袋です。軽く、背負うことができ、広げればそこが図書館になるので、山がちなラオスで図書を普及させるのに大きく貢献しました。会の塩谷理事とボランティアの清水さんは、図書袋を開き、場内を一周すると参加者は目で追い、さらにカメラを持って次々とシャッターを押していました。なかなか、いい気分。

発表後、昼休みにラオスの紙芝居「まるちゃんのともち」をロビーで実演しました(たのまれもしないのに、ゲリラ的に)。この紙芝居をエチオピアの小学校などでも演じてきた森ですが、大人だけ(しかも児童書の専門家ばかり)を相手にするのは初めてで、緊張しました。が、みなさん楽しんでくれました。ありがとう。

### ■ コペンハーゲンの街

北欧といえば福祉が進んでいる、と聞いている通り、街はどこでも車椅子で移動できるようになっています。また、自転車交通手段の一つとして確立し、歩道と車道の間自転車レーンが設けられ、車と張り合うようなスピードで走り抜けていきます。また、ハンドルの前に子どもを乗せるようになっているのも、北欧らしさをうかがわせます。意外だったのは歩きタバコ人口の多いこと。男女ともに愛煙家が多いのはびっくりしました。



## 受賞を祝う会を開催。[東京]

10月11日には、東京・広尾のJICA地球広場で「受賞を祝う会」を開催し、66人のみなさんの参加をいただきました。

### ●様々な支援を得て、活動が行われてきました

祝う会は、これまで会を支えてきてくださった方々、朝日賞を機に会の活動に関心を寄せてくださった方など、様々な方におこしいただきました。

会の活動の紹介に続いて、絵本作りの専門家として協力をいただいている長野ヒデ子さんとチャントソンの対談を行いました。長野さんは、ラオスに赴いて作家育成のワークショップを開いてきたことや子どもたちとの交流などについて振りかえり、ゆったりとしておだやかなラオスの魅力が、ラオスの人々が作る絵本作品に映し出されていったら素晴らしいと語りました。

さらに、絵本・紙芝居作家、やべみつのりさんにも加わっていただき、ラオスでの絵本・紙芝居の可能性、子どもたちが夢をもって健やかに育つことへの願いが、語られました。

また、今回の朝日賞に向けてご協力いただいた津田塾大学の早川敦子先生からIBBYと朝日賞についてお話をいただきました。

引き続き懇親会では、子どもの本に関わる様々な方の交流が行われました。数え切れない支援を得て、活動が行われ、受賞に結びついたことを、みなさまに感謝いたします。



絵本・紙芝居作家の長野ヒデ子さん、やべみつのりさんとチャントソン共同代表



多くの支援者のみなさんに受賞を祝っていただきました

### IBBY (International Board on Books for Young People 国際児童図書評議会) とは——

1953年に設立され、子どもと子どもの本に関わる人をつなぐ世界的ネットワークとしてスイスのバーゼルに本部を置き、子どもの権利条約に基づいて活動をしています。子どもの権利は、子どもが一般教育を受ける権利、直接に情報に接しうる権利を謳い、すべての国に、子どもの本の出版と普及に努力するよう呼びかけています。IBBYの活動の柱の一つが、発展途上国ですぐれた子どもの本の出版や普及を奨励することです。

### JBBY (社団法人日本国際児童図書評議会) とは——

「子どもの本を通して国際理解を」というIBBYの理念に共鳴して1974年に設立されました。子どもの本についての国際交流、調査研究などを通じて、本の質を高め、読書活動を促進し、子どものすこやかな成長を願って活動をしています。今回、当会の活動は、JBBYからの推薦でIBBYに申請され、受賞にいたりしました。

### IBBY 朝日国際児童図書普及賞とは——

1986年に開催されたIBBY東京大会を記念して創設されました。朝日新聞社がスポンサーで、子どもの読書を推進している世界の活動の中から際だった独創的なものに毎年1回授与され、賞金100万円が贈られます。これまで、1989年にはタイの図書箱による移動式巡回文庫が、また日本では1998年に点訳を行う「てんやく絵本ふれあい文庫」が受賞しています。

## ラオスで、日本各地で、様々な支援・参加・協力のもとに。

支援先のラオスの学校訪問や、日本でのラオスの文化の紹介、バザー開催など、各地でそれぞれに工夫を凝らした支援・参加・協力をいただいています。

### 富士ゼロックス スタディツアー

●運動会に、子どもも大人も大興奮！  
「わーっ！」という子どもたちの歓声が綱を引く両サイドから一斉に上がりました。富士ゼロックス端数倶楽部は2008年11月9日～15

日、初のラオス・スタディツアーを実施(参加16名)。図書室を寄贈したヴィエンチャン近郊のドン・ハイ小学校での運動会の一コマです。



端数倶楽部は、社員から給与の端数金額を1口として寄付を受け、様々な分野のNGO/NPOを支援するボランティア団体です。「ラオスのこども」には9年前から資金支援を始め、2005年からは不要になった絵本を集め、ラオス語訳を貼り、延べ300冊を送ってきました。昨年、図書室を寄贈し、今年は支援してきた活動を実際に見て、今後どのような支援ができるのかを考えるため、ツアーを実施しました。

初日はラオスのこどものヴィエンチャン事務所長のダラーさんにラオスの教育事情の説明を受け、翌日は

図書室を寄贈した小学校を訪問。体育の時間も運動会もないと聞いていたので、日本から綱引きの綱や玉入れグッズを持っていきました。

子どもたちは予想以上にスムーズにルールを理解し、思い切り運動会を楽しんでいました。綱引きでは先生も私たちも交じて大興奮！てんやわんやの綱引きに。子ども以上に大人が楽しんでいたので？お絵かき、塗り絵、折り紙や凧揚げなども行い、大変楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

残念だったのは寄贈した図書室が週に2日しか開館されず、あまり本を読まれた形跡がないということです。対応できる先生が限られていることが原因のようですが、図書の時間を授業に取り入れるなど、もっと本を読んで世界を広げてほしいと思います。参加メンバーからも、「もっと子どもたちに本を読んでもらえる工夫を提案できるのではないか？」「田舎の恵まれていない小学校にも図書室を作って本を読んでも欲しい！」など、積極的な意見が出ました。

これからも継続して支援していきたいという気持ちが強まり、支援の仕方、関わり方など、多くを考えさせる良いスタディツアーになりました。

(中谷梨映子さん／富士ゼロックス端数倶楽部・ラオスのこどもサポーター会員)

### ラオス語絵本

●ラオス文字カードに挑戦！

7/5 沖電気工業株式会社

今年で9回目となる「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう！」初参加の人からリピーターまで、社

員や社員の家族、ボランティアなど合計38名が参加しました。恒例のラオス



関連クイズや、ラオスのコーヒー、お菓子を楽しんだ後、いよいよ作業。今回は新企画としてラオス文字カードに挑戦。27ある子音を各自、1文字ずつ作り、初めてとは思えないきれいに仕上がりました。ラオス語絵本づくりは、日本語の絵本にラオス語訳文を貼り付けます。これまでに作った382冊に加え、今回は過去最高の70冊ができあがりました。



●絵本の思い出をおしゃべりしながら。

11/18-19 住商情報システム株式会社

社員対象の古本市会場で、ラオス語絵本づくりミニワークショップを実施しました。ラオス語翻訳を貼り付ける絵本を見ると「子どもの時に大好きだった本だ!」「この絵本どういう話だった?」「子どもによく読んであげたなあ」などなど、参加者それぞれの絵本に対する思い出をおしゃべりしながら、ラオス語絵本づくりの体験をしてもらいました。1冊の本を少しずつ2~3人で一緒に作ったり、ひとりで2~3冊やったりと、皆さん時間をやりくりして参加。合計32冊の絵本にラオス語の翻訳を貼り付けることができました。



## 全国各地で協力の輪

### ●絵本と民族衣装を紹介[横浜]

横浜市中心図書館で10、11月、「子供の本で知るアジアの国々」～児童書展示会とギャラリートーク、ブックトーク、おはなし会～(主催:横浜市教育委員会、よこはまライブラリーフレンド、かながわこどもひろば)が開かれ、当会の絵本、紙芝居と民族衣装が紹介されました。モン族の民族衣装ができるまでを絵本にした『わたしのスカート』(安井清子/文・写真 西山晶/絵 福音館書店)をもとに、麻の種をまき、糸をつむぎ、織り、染め、刺繍をし、プリーツをよせ、と作業の流れとともに、



モン族のスカートを披露。来場した女の子に試着してもらったところ、とても可愛く、歓声が上がりました。



さんのアジア・アフリカやアイヌ民族などふだんふれる機会のない絵本のコレクション約500点とともに当会のパネルが展示され、約450人が訪れました。期間中、乾さんによる道民カレッジ連携講座「異文化を伝える絵本」を開催。当会の出版活動を紹介しながら、各国の絵本や出版事情などについて語られ、会場からは絵本と文化、宗教、政治など様々な質問が出されるなど熱のこもった絵本講座となりました。

### ●道民カレッジ連携講座で、出版活動を紹介[札幌]

紀伊國屋書店札幌本店で10月、「異文化絵本展」が開催され、東海大学国際文化学部地域創造学科教授、乾淑子

ここではすべてを紹介しきれませんが、各地の学校中学・高校・大学の文化祭などで、古本市、バザー、募金活動が行われ、「ラオスの子どもたちに読書を！」と、当会の活動にご支援をいただいています。どうもありがとうございます。

## イベントで大活躍!

～会のボランティアが活躍する恒例のイベント[東京]～

### ●雨にもめげず、麻布十番納涼祭り国際バザール



8月、麻布十番納涼祭りは参加9年目にして初めて土曜日曜のほとんどが雨降り..客足も少なく大変でした。でも、沢山のボランティアが参加してくれて、現場では皆ずぶ濡れになりながら声を張り上げて販売しました。

「絵本が子どもたちに届くまで」と題し、絵本にラオス語絵本づくりの体験コーナーを設け、また、学習院女子大学の学生が夏にラオスで子どもたちにリコーダーを教えた活動の報告も行われました。



### ●体験型も取り入れて。グローバルフェスタ



10月、日比谷公園で行われたグローバルフェスタに出展。ラオス語版「ドラエもん」に来場者が珍しそうに手を伸ばす風景も。

### ●味覚でアピール。OTA ふれあいフェスタ

11月、会の事務所がある大田区の区民まつり、OTA ふれあいフェスタに出店。この日に向けてボランティアが開発した、ハーブとスパイスをほどよくかかせた手作りのパテと野菜をラオスでお馴染みのフランスパンにはさんだ「ラオス風バゲットサンド」が好評でした。



## 支援先のラオス現地での活動をご報告いたします。

### ●洪水被災地への支援 (9月)

2008年夏、例年にない豪雨が続き、ラオス各地が水害に見舞われました。洪水が3週間続いたボリカムサイの子ども文化センター(CCC)の周辺地域は、住まいや収穫前の耕作地が泥につかり、船での移動や避難を余儀なくされました。当会は寄付を募り、また在ラオス日本人の方々からも支援をいただき、飲用水、もち米、缶詰、ナンバー(魚醬)、石鹸、文具などを子どもたちに手渡すとともに、スタッフや学生ボランティアが、歌と踊り、読み聞かせ、紙芝居の実演など子どもたちとの活動を行い、心のケアに務めました。



ある学校は、昨年の訪問では子どもたちはとても恥ずかしがり屋で質問にもあまり答えてくれませんでした。今年、歌を歌ったり、インタビューに答えたり、前に出て本を読んだりとても積極的になっていました。先生が、子どもたちに本をよく活用している様子がうかがえました。

(ご支援：JICA 草の根技術協力事業)

### ●図書室開設

ルアンナムター県ナーレー郡2校 (11月)

ヴィエンチャン都から北へ約400kmにあるルアンナムター県。その中心部からさらに車で悪路を約6時間行ったところがナーレー郡です。ナーレー郡中高校(生徒524人、教員22人)は、生徒の多くが敷地内の寮で自炊しています。図書の登録作業(ラベル・貸出カード・貸出カード入れづくりなど)は生徒も手伝ってスムーズに進みました。



バーンラオ小学校(児童138人、教員5人)は、山に囲まれ、とても静か。中学校が併設されています。先生も子どもたちも本に興味津々。図書室に本を運ぶと、さっそく手にとって読み始め、図書の使い方などのセミナーには5年生も参加しました。



(ご支援：三井住友銀行ボランティア基金)

サイヤブリ県2か所 (11月)

ゲンタオ郡ゲンタオ子ども文化センター(CCC)は、窮屈だったこれまでの図書室に加え、敷地の別室の一部を図書室として拡張し、図書を増やしました。

(ご支援：三井住友銀行ボランティア基金)

ボーテン郡ナンプ小学校

(児童118人、教員11人)は広大な敷地(3.36ha)に幼稚園、中学校が併設されています。道中、泥はねで黒い車が茶色に。学校の手前は手作りの竹の橋がかかり、歩いて学校に到着。図書の登録作業は子どもたちも手伝いました。



(ご支援：早川要清・和田慎二)

(敬称略)

### ●ヴィエンチャン県90校、セミナーと図書補充 (10月)

ヴァンヴィエンで図書利用のセミナーを実施。対象校90校の図書担当教員90人、9郡の郡教育局教育指導官9人が参加しました。講師は、国立図書館職員、ヴィエンチャン県教育局読書推進活動担当職員、当会スタッフのほか、若手ボランティアも参加しました。ラム(音楽にあわせた語り)や民話の語りを実演など郷土色豊かに行われました。



### ●ヴィエンチャン県、図書利用状況の調査 (10月)

学校への図書配布は段ボール箱で届け、その後の管理方法は各校に任せています。2007年9月に図書配付前の調査をした6校に、配付後の利用状況の調査を実施。それぞれ、職員室の一角に図書コーナーを設けたり、独自に図書室をつくる等工夫されていました。図書の整頓と補修がよくされている学校がある一方で、子どもたちが破いて、ほとんどの本が読むことができなくなった学校もありました。



ラオス語を母語とするラオ族の子どもたちでも3年生になって文章が読めるようになるのが一般的です。4、5年生の有志に実際に本を読んでもらおうと、多くがすらすら読める学校もあれば、5年生になっても、どたどしく読むのがやっとという学校もあります。

## 国内の活動・事務局より

2008年8月～11月

### <東京事務所の動き>

#### 8月

- 8/10 理事会、運営会議
- 8/22-24 麻布十番納涼祭り国際バザール
- 8/30 理事会

#### 9月

- 9/3 JICS NGO 支援事業報告会・意見交換会
- 9/20 2008年度通常総会
- 9/23 富士ゼロックス端数倶楽部ラオススタディーツアー説明会
- 9/26 富士ゼロックス古本市での出展

#### 10月

- 10/4-5 グローバルフェスタ 2008
- 10/11 IBBY朝日国際児童図書普及賞受賞を祝う
- 10/25 キヤノン チャリティブックフェア (準備ボランティア)
- 10/28 祈り題目

#### 11月

- 11/8-9 OTA ふれあいフェスタ 2008
- 11/14 日本国際協力財団NPO事業報告会
- 11/15 馬込文化センターまつり フリーマーケットに出店
- 11/14-15 総務・労務研修 (講師・助言委員)
- 11/18-19 住商情報システム「古本市」(ラオス語絵本作りワークショップ)
- 11/20 学習院女子大学にて講義

※ HA=ハックアーン(学校図書室)  
CCC=子ども文化センター

### <ラオス事務所の動き>

#### 8月

- 8/1 図書活用指導「出前活動」<ヴィエンチャン都>
- 8/12-29 学習院女子大学ラオス国際協力研修 長期インターン受入

#### 8/20 参議院ODA調査団受入

- 8/20-29 図書活用指導「出前活動」<セコン県・アッタプー県>

#### 8/27 九州大学スタディーツアー受入

- 8/29 Japan NGO ミーティング (JANM) 出席 (猿田)

#### 9月

- 9/3 ターパバットCCC、ポリカムサイCCC訪問
- 9/8 JICA草の根技術協力事業モニタリング調査団受入
- 9/16-10/14 猿田一時帰国

#### 10月

- 10/8-10 読書推進活 指導研修<チャムパサック県>
- 10/16,18 ODA評価～NGOとの合同評価調査団受入
- 10/27-28 モニタリング調査<ヴィエンチャン県>
- 10/29-31 フォローアップセミナー<ヴィエンチャン県>

#### 11月

- 11/5-7 読書推進活動指導研修<ボークオ県>
- 11/10-13 HA 177-178 開設<ルアンナムター県>
- 11/10-12 富士ゼロックス端数倶楽部ツアー受入
- 11/19-22 HA 179-180 開設<サイヤブリー県>
- 11/26-28 ラオス語教授法改善内容検討会議<ヴィエンチャン都>
- 11/27 Assist Children for Laos 訪問受入

## JANICの

## 「アカウンタビリティ・セルフチェック 2008 マーク」を取得しました。

「あのNGOは運営がちゃんとしているの？」

社会のこうした疑問や不安に答えようと、会が加盟するNGOのネットワーク団体のJANIC (国際協力NGOセンター) は、このほど「アカウンタビリティ・セルフチェック」システムを設けました。これは、組織運営などの自己診断がJANIC 立会いのもとに透明かつ適正に行われた場合、その団体はアカウンタビリティ(\*)に留意し、これを高める努力を続けているとして、マークを表示できるものです。

ラオスのこどもは、その最初の団体として2008マークの使用が認められました。今後とも組織運営の信頼性を高めるよう務めていきます。

\*アカウンタビリティ: ある人ないし組織の業績、応答性、さらには倫理性について、利害関係者が持つさまざまな期待に応えること。(JANICの定義)



Accountability Self-Check 2008

これは、JANICの「アカウンタビリティセルフチェック 2008」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野 (組織運営・事業実施・会計・情報公開) について当団体が適切に自己審査したことを示しています。